

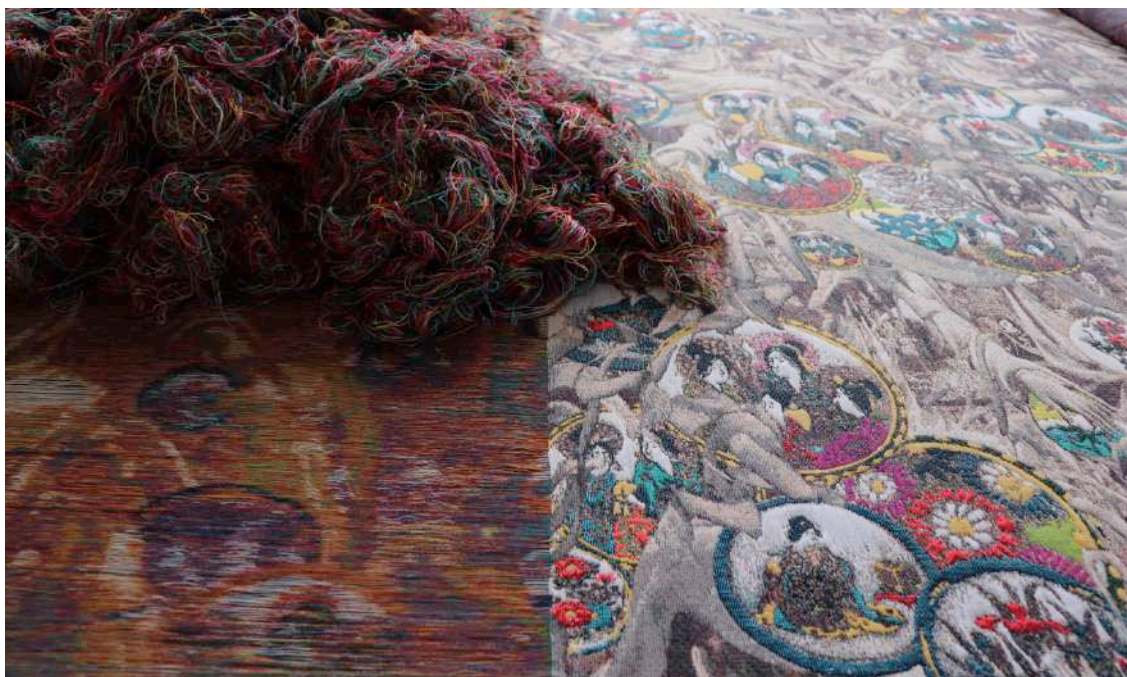
Exhibition

手塚愛子展

「Dear Oblivion —親愛なる忘却へ—」

会期 2019年9月4日(水) —18日(水) 11:00-20:00

会場 スパイラルガーデン (スパイラル1F)



《必要性と振る舞い(薩摩ボタンへの考察)》制作過程

スパイラルは、手塚愛子展「Dear Oblivion —親愛なる忘却へ—」を2019年9月4日(水)—9月18日(水)にスパイラルガーデン(スパイラル1F)にて開催いたします。

手塚愛子は、絵画を探求するなかで織物に着目し、織物の解体と再構築という独自の手法を用いた作品が国内外で高い評価を受け、近年はベルリンを拠点に活動しています。スパイラルガーデンでは2007年に「薄い膜、地下の森」と題した個展を開催、この度、12年ぶりの同会場での個展となる本展では、日本と西欧、美術と工芸、近代と現代、過去と現在、それぞれの出会い、あるいは分岐についての考察から生まれた新作4点を発表します。

江戸末期、日本から西欧への輸出品として重宝された薩摩ボタンをモチーフにした《必要性と振る舞い(薩摩ボタンへの考察)》、明治期に織られたテーブルクロスを現代に蘇らせる《京都で織りなおし》、洋装を初めて取り入れたことでも知られる昭憲皇太后の大礼服のデザインに着想を得た《親愛なる忘却へ(美子皇后について)》、レンブラントの《夜警》とインド更紗を引用した《華の闇(夜警)》。いずれの新作も、KCI(京都服飾文化研究財団)、川島織物セルコン、共立女子大学博物館、テキスタイル博物館 テキスタイルラボ(ティルブルフ、オランダ)との協働によって制作されました。

ヒエラルキーがいまだに存在する芸術の領域において「工芸的」「装飾的」とも見なされる手法を用いながら、しなやかにそしてしたたかに、モダニズム美術あるいは近代それ自体を検討し、わたしたちに問いを投げかける手塚愛子の新たな展開にぜひご期待ください。

この機会に、本展の掲載・取材の検討をお願いいたします。

*本展は五島記念文化賞新人賞における成果発表展として東急財団(旧:五島記念文化財団)より助成を受け実施いたします。

■取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。
スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部 瀧本恵理
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23 TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848
E-mail press@spiral.co.jp <http://www.spiral.co.jp/>

spiral

本展の見どころ（主な展示作品）



《必要性と振る舞い（薩摩ボタンへの考察）》制作過程

本作は、KCI（京都服飾文化研究財団）が所蔵する、およそ100年前の薩摩ボタンが発想の起源となっています。薩摩ボタンは、19世紀、日本趣味を意味するくジャポニズムのヨーロッパでの大流行を受け、直径数センチのボタンに薩摩焼で日本情緒あふれる風景や着物姿の女性が描かれ輸出されていました。当時、着物が主流であった日本人にとってボタンは不要な装飾品でありながら、そこに日本らしさが施されていたことに着目した手塚は、薩摩ボタンが描かれた織物と同時代（18-19世紀）のヨーロッパのボタンをモチーフとした織物を製作、2種の織物を解き、その解かれた糸を再び紡ぎ、新たな作品として構成するインスタレーションを展開します。



《京都で織りなおし》Photo：川島織物セルコン

100年以上前に川島織物によって織られたテーブルクロスを同社（現・川島織物セルコン）が本展のために再製作し、現代に蘇らせます。このテーブルクロスは、京都の老舗・川島織物によるものであり、KCI（京都服飾文化研究財団）が所蔵し、京都に本社を置くワコールを親会社とするスパイラルでお披露目されるという京都を取り巻く縁で繋がっています。



《華の闇（夜警 02）》Photo © Lepkowski Studios, Berlin

17世紀オランダの画家・レンブラントによる巧みな光と闇の描写が鑑賞者を惹きつける《夜警》（1642年、アムステルダム国立美術館蔵）を引用した《華の闇（夜警）》。絵画の中の「闇」の部分がインド更紗に置き換えられ、絵画と工芸の融合が見て取れます。アムステルダム国立美術館のキュレーター、Ching-Ling Wang氏からレンブラントのオマージュ作品の提案を受け、彼とのコラボレーションとして制作された本作、2020年の同館での展示に先駆けスパイラルで発表します。

《親愛なる忘却へ（美子皇后について）》（織物部分）
Photo © Lepkowski Studios, Berlin

皇族として着物から洋服に切り替えた初めての皇后として知られる昭憲皇太后の大礼服として保存されている深い緑のビロード地に大中小の菊が刺繍されたマント。近代日本の女性の洋装化をめぐる皇后が置かれた状況に思いを馳せ、手塚はそのマントに施された刺繍と、当時、皇后が詠まれた2首の歌を合わせた織物として再構築しました。

プロフィール

手塚愛子 Aiko Tezuka

1976年東京生まれ。2001年武蔵野美術大学大学院油画コース修了。2005年京都市立芸術大学大学院油画領域博士（後期）課程修了。2010年五島記念文化賞美術新人賞により渡英。その後文化庁新進芸術家海外研修制度により渡独。織られたものを解きほぐす作品を1997年より開始し、歴史上の造形物を引用、編集しながら新たな構造体を作り出す、独自の手法により制作を続ける。現在ベルリン在住。近年の展覧会は東京都現代美術館、福岡市美術館、国立新美術館、兵庫県立美術館、豊田市美術館、テキスタイル博物館（オランダ）、ヨハン・ヤコブ美術館（スイス）、韓国国立現代美術館、ターナーコンテンポラリー現代美術館（イギリス）、アジア美術館（ドイツ、ベルリン）、美術工芸博物館（ドイツ、ハンブルク）など多数。

作家メッセージ

私が五島記念文化賞新人賞を頂いたことをきっかけにヨーロッパに渡ったのが2010年、早くも10年が経とうとしています。この度、その新人賞の海外研修成果発表展を開催するにあたって、12年ぶりのスパイラルでの個展の機会をいただきました。その後、スパイラルの方にKCI（京都服飾文化研究財団）の研究者の方々とのご縁を作っていただいたことで、この個展のための新作プロジェクトが動き出しました。KCIの周防珠実様のご多大なご協力により、私にとっての明治への扉が開いていきました。今回の新作群はあらかじめ予定されていたものではなく、まず薩摩ボタンという存在そのものに着目し、そこから、川島織物の歴史、美子皇后のマントと和歌、といったように、順々に、そして自然に、作品ができていきました。何かに導かれているような、不思議な体験でした。

そのような経緯で制作された新作は、スパイラルのキュレーターの方々をはじめ、多くの方々のご協力と歴史的資料がなければ完成しなかったものでした。作品が徐々に出来上がっていくにつれて、私は、それを美術の展覧会として社会に開いていくために観者とのようにコミュニケーションを取るか、つまりどのような経緯で出来上がっていった作品群なのかを確実に伝えるにはどうしたら良いか、ということを考えておりました。そして、この展覧会には作品の歴史的意味づけと、観者との架け橋を受け持ってくださいる第三者の目が必要だという判断から、福岡市美術館学芸員の正路佐知子様に監修およびキュレーションをお願いいたしました。

もう戻れないけれど、現在の私たちの多くを決定づけてしまった明治。リサーチの途中、美子皇后の人生について読んでいた時に、ふいに涙が溢れる瞬間がありました。それは悲しい涙なのか、感動なのか、よくわかりません。美子皇后が洋装に切り替えたという決断の背後にあったもの、また同時に、多くの外国の大使が美子皇后の最後の和装姿は幻想的だったと語ったこと、それらが入り混じり、胸が熱くなり、その温度が、私にこれらの作品を作らせました。ベルリンでも同時開催の個展でこれらの新作を発表しますが、ぜひ日本の方々にはスパイラルの展示を見にきていただきたいと思っています。

最後に、本展開催に当たり助成をいただきました東急財団には、世界に出て活動するための鍵を私に与えてくださったこと、また、その成果を日本のみならずに見ていただくための支援をしてくださったことに、心より感謝申し上げます。

————— 手塚愛子

関連イベント

オープニングレセプション

日時：2019年9月3日（火）19:00-21:00

会場：スパイラルガーデン（スパイラル1F）

オープニングレセプション内で手塚愛子と本展監修の正路佐知子氏とのトークイベント（19:00-20:00）を開催いたします。一般の方もご来場いただけます。

アーティストトーク

日時：2019年9月8日（日）15:00-16:00

会場：スパイラルガーデン（スパイラル1F）※事前申込み不要。直接会場までお越しください。

開催概要

手塚愛子展 「Dear Oblivion —親愛なる忘却へ—」

会期 2019年9月4日(水) — 18日(水) 11:00-20:00
会場 スパイラルガーデン (東京都港区南青山 5-6-23 スパイラル 1F)
入場 無料
主催 公益財団法人 東急財団
共催 株式会社ワコールアートセンター
企画制作 スパイラル
監修 正路佐知子 (キュレーター、福岡市美術館)
協力 川島織物セルコン、公益財団法人 京都服飾文化研究財団、共立女子大学博物館、周防珠実 (京都服飾文化研究財団)、テキスタイル博物館 テキスタイルラボ (ティルブルフ、オランダ)、東京都庭園美術館、長崎巖 (共立女子大学家政学部教授、共立女子大学博物館長)、Galerie Michael Janssen | Berlin

同時期開催

手塚愛子個展 「Flowery Obscurity 華の闇」

MA2 Gallery (東京都渋谷区恵比寿 3-3-8)

2019年9月7日(土) — 28日(土) 12:00-19:00 (休廊: 日・月曜、祝日)

手塚愛子個展 「Dear Oblivion —親愛なる忘却へ—」

Galerie Michael Janssen (Potsdamer Straße 63, 10785 Berlin, Germany)

2019年9月14日(日) — 11月16日(土) 11:00-18:00 (休廊: 日・月曜、祝日)